

修士論文（要旨）
2023年1月

中国農村部における高齢者の在宅サービスの利用
および利用意向に関連する要因
—杭州市を例に—

指導 中谷 陽明 教授
国際学術研究科
国際学術専攻
老年学学位プログラム
221J5005
徐 芳晨子

Master's Thesis (Abstract)

January 2023

Factors related to the use of home-based care
services for older people and intention to use these
services in rural area of China:
A Case Study of Hangzhou

Xu Fangchenzi

221J5005

Master of Arts Program in Gerontology

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Yomei Nakatani

目次

はじめに.....	1
第一章 高齢化と在宅サービス.....	1
1.1 研究背景.....	1
1.2 日中在宅サービスの違い	2
1.3 中国の農村部における在宅サービスの現状と特徴.....	3
1.4 杭州市における在宅サービスの構成	4
第二章 先行研究.....	5
2.1 在宅サービス研究の到達点	5
2.2 中国国内でサービスの利用に関する既存研究の課題	6
2.3 研究目的	6
第三章 調査方法	6
3.1 調査対象.....	6
3.2 調査方法.....	7
3.3 調査内容.....	7
3.4 分析方法.....	9
3.5 倫理的配慮	9
第四章 研究結果	10
4.1 基本属性.....	10
4.2 各サービスの関連要因	11
4.2.1 訪問介護サービス	12
4.2.2 訪問看護サービス	16
4.2.3 訪問入浴サービス	20
4.2.4 健康管理指導サービス.....	24
4.2.5 心理的支援サービス.....	29
4.2.6 住宅改装サービス.....	33
第五章 考察.....	37
引用文献	
添付資料1 調査票	
添付資料2 ロジスティック回帰分析完全版	

一 研究背景と目的

第7回国勢調査によると、中国では高齢化が進む一方で、多くの社会問題をもたらしている。都市部での在宅サービスを推進するとともに、農村部にも推進しているが、都市部と比べて、農村部の高齢化は深刻化しており、地域資源の不足のため、在宅サービスを展開するのは難しく、都市部と農村部の差が徐々に大きくなってきた。

浙江省政府が発表したデータによると、2020年まで、杭州市の60歳以上の高齢者人口は188.29万人で、総人口の23%を占める¹³⁾。人口高齢化が急速に進行していることだけではなく、要支援・要介護高齢者人口の割合が大きく上昇したことが明らかになった。都市部と比べると、若者の都市部への大幅な人口移動が起こり、農村部の高齢化はさらに進んでおり、在宅介護サービスのニーズが高まると予測できる。調査地の杭州市の農村部では、人口の約3分の1を占める農村部の若者が都市部に移住しており¹⁴⁾、人口減少やそれに伴う経済の悪化により、農村部の高齢者の老後生活は重要な課題に直面している。

既存研究の課題では、在宅サービスの利用を促進・阻害する要因については、多く検討されているが、農村部の視点から在宅サービスの利用状況と利用要因に関する研究論文はまだ少ない。そのため本論文は、農村部高齢者の基本属性と経済状況に着目し、政策の認知度などの変数を加え、在宅サービスの利用および利用意向に影響する要因を検討する。それによって、農村地域の実態に合わせた、在宅サービス利用の促進についての支援策を検討する。

二 調査と研究方法

本調査は、杭州市の農村部に在住、農村戸籍を持つ、65歳以上の高齢者を対象とした。調査地域は、杭州市の既存の農村地域で、富陽区、桐廬県、淳安県、建徳市4ヶ所がある。調査期間は2022年9月15日から2022年10月7日までであった。アンケートは、ポスターの掲示やSNSなどを通じて、4つの調査地域に312枚のアンケートが配布され、そのうち187枚が有効で、回収率は60%であった。回収したアンケートの中、現在高齢者施設に住む回答者を外し、残り139名の回答者を本研究の調査対象とした。

調査内容は選択式の質問としての属性、経済状況、心理的状況と在宅サービスの利用状況などについて回答を求めた。利用及び利用意向に影響を与える要因は、Andersenの行動モデルの3つの要因である素因、利用促進要因、ニーズ要因の各要因に該当する変数として設定した。

各サービスの利用状況と利用意向は、基本属性と「素因」、「利用促進要因」「ニーズ要因」の変数とクロス集計および χ^2 検定を行った。次に、二項ロジスティクス回帰分析を用いて、高齢者の在宅サービス利用状況や利用意向について、農村部高齢者の在宅サービス利用に関連する要因を明らかにした。統計解析はIBM SPSS Statistics 27を利用した。

三 結論と考察

訪問介護について、自身の健康状態への関心度が高いほど利用率が高くなる。また、学歴の低いほど、福祉政策の認知が高いほど利用する傾向がある。提案として、医療介護情報システムの普及・導入により、農村部高齢者の健康意識や福祉政策に対する認知度を向上し、

訪問介護サービス利用率の向上につなげたいと考えられる。利用意向を高めるために、高齢者の学歴や経済状況を考慮して、訪問介護サービスを普及させる際には、医療介護職員が対面でのコミュニケーションを行い、加入可能な福祉政策や補助金などの情報を細かく伝えるように検討する。

訪問看護について、既婚、三年以内病気で入院歴があることが訪問看護サービス利用と有無に関連していた。近所に国営民営高齢者施設があれば、訪問看護を利用する傾向が高くなるという特徴が見られる。農村地域の福祉施設を増やすため、地方への財源や資源配分を増やし、看護師などの労働環境の改善と同時に、民営企業に一連の優遇措置を確立すべきである。

訪問入浴について、近所付き合い程度が低いほど、訪問入浴サービスを利用する傾向にあることがわかる。農村部の高齢者の心身機能を維持するために、村民委員会や自治体が定期的に様々なレクリエーションを行うなど、高齢者の社会的ネットワークを維持することができる。一方、利用率を高めるため、入浴介助拠点を設置し、適切な入浴設備を充実し、入浴介助企業を育成するために力を入れる。

健康管理指導について、年齢が下がり、自分の健康状態への関心が高くなると、健康管理指導サービスの利用意向を高めるという傾向が見られる。経済的および学歴が理由で、農村地域の高齢者の健康意識がかなり低い現状がある。加齢にともない、かかりつけ医の制度を活用し、定期的に無料で健康診断を行い、徐々に良い生活習慣を身につけることができるよう努力した方がよい。そして、健康状態への関心を高めるために、健康増進に伴う知識を普及し、個人の健康を支え、守るための環境づくりが求められる。

心理的支援について、家族関係が悪い人ほど、心理的支援サービスを利用する傾向がある。また、主観的な経済状況がゆとりある人ほど、孤独感が高い人ほど、利用意向が高くなることを示した。若年層の流出により、農村部で一人暮らし高齢者が増え、家族関係が希薄化になり、高齢者の孤独感を強めてきた。また、経済面での不安を挙げる人が多かった。現在の農村部の高齢者の多くは、自分がお金を払って、誰かに悩みを聞いてもらって問題を解決するという形に慣れておらず、サービス利用に対して不安になりやすいと考えられる。そのため、養老保障制度を健全化し、サービスを積極的に宣伝し、定期的に訪問し、心理的活動を展開して信頼関係をつくる必要がある。

住宅改装の結果によって、一人暮らしの回答者は、同居者がいると比べて、サービス利用の可能性が高いと見られる。さらに、日常生活能力が低いほど利用意向が高いという傾向があると示唆された。ただし、実態を見ると、農村部高齢者の収入は低く、改修には多額の費用がかかるため、都市部と比べてサービス利用の推進が順調ではない。独居高齢者は、同居高齢者に比べ、日常生活の不便さや体力の低下などにより、住宅改装ニーズが強いことから、高齢者の実情を十分に考え、優先的にサービスを提供したり、より優遇措置を推進したりすることの検討が必要である。

引用文献

- 1) Chinese Social Survey Open Database 「在宅サービス調査研究」2014年.
Available: <http://www.cnsda.org>
- 2) 国務院第七次全国人口調査指導グループ事務局. 「第7回国勢調査公報」 2021年5月11日. Available: http://www.gov.cn/guoqing/2021-05/13/content_5606149.html.
- 3) 崔麗. 「農村人口の高齢化と養老問題に関する研究」 南京師範大学. 2019
- 4) 内閣府経済社会総合研究所「中国の人口高齢化—進行の趨勢、経済への影響及び対策」 2012年8月
- 5) 杭州市人民政府门户网站. 「2021年杭州市人口主要数据公报」 2022年2月26日
Available: http://www.hangzhou.gov.cn/art/2022/2/26/art_1229063404_4019874.html.
- 6) 曾起艷. 何志鵬. 曾寅初. 「The Cause of Paradoxical between Willingness and Behavior of Elderly People's Demand for Home-based Care Services」『Population & Economics』 pp. 87-103. 2022
- 7) 於敏. 「新时代农村居家养老服务发展的现实梗阻与优化路径探索」『商业2.0(经济管理)』 第5卷 pp. 238-240. 2022
- 8) 李兆友. 鄭吉友. 「農村における在宅介護サービスに対する需要強度の実証分析—遼寧省S鎮の農村高齢者を対象とした」『社会保障研究』第5巻 pp. 18-26. 2016
- 9) 刘小健. 「老年人居家养老服务需求以及影响因素分析」『智库时代』2018
- 10) 贺雪峰. 「如何应对农村老龄化—关于建立农村互助养老的设想」『中国农业大学学报(社会科学版)』第5巻 pp. 58 - 65. 2019
- 11) 張鵬. 「都市部高齢者における医療・介護サービスの利用に関する不安感の関連要因：独居高齢者に着目して」首都大学東京大学院・都市環境科学研究科・都市政策科学域 2019
- 12) 中国社会科学报网站「2014年中国農村養老現状国勢調査」 2015年4月27日
Available: <https://news.sufe.edu.cn/3e/69/c181a15977/page.htm>
- 13) 杭州市人民政府门户网站「2021年杭州市居住者人口统计」2022年. Available: http://www.hangzhou.gov.cn/art/2022/2/26/art_1229063404_4019874.html
- 14) 郭竞成. 「农村居家养老服务的需求强度与需求弹性—基于浙江农村老年人问卷调查的研究」『社会保障研究』第1巻 pp. 47-57. 2012
- 15) 中国社会科学报网站. 「2014年中国農村養老現状国勢調査」. 2015年4月27日.
Available: <https://news.sufe.edu.cn/3e/69/c181a15977/page.htm>
- 16) 杭州市人民代表大会常务委员会. 「杭州市居家养老服务条例」. 2020年5月15日.
Available: http://www.hangzhou.gov.cn/art/2020/5/15/art_1229063379_1716383.html
- 17) 杉澤秀博. 深谷太郎. 杉原陽子. 石川久展. 中谷陽明. 金恵京. 「介護保険制度下における在宅介護サービスの過少利用の要因」『日本公衛誌』 第49巻. 第5号. 2002
- 18) 石附敬. 和氣純子. 「重度要介護高齢者の在宅サービスの利用実態と利用要因—長期

- 在宅者と施設入所者の比較」、『社会福祉学』 第 51 巻第 2 号. 2010
- 19) 宣賢奎. 「韓国における介護サービス供給の地域差」『国際地域学研究』. 第 24 巻 pp. 41-61. 2021
- 20) Guida C. and Carpentieri, G. 「Quality of Life in the Urban Environment and Primary Health Services for the Elderly during the Covid-19 Pandemic: An Application to the City of Milan (Italy). Cities,」 110, Article ID: 103038. 2021
- 21) López. J, Pérez-Rojo, G. Noriega. C. and Velasco. C, 「Personal and Work-Related Factors Associated with Good Care for Institutionalized Older Adults.」 『International Journal of Environmental Research and Public Health』 18, Article No. 820. 2021
- 22) 王麗敏. 「中国における地域密着型高齢者介護サービスの需要と供給の矛盾と対策」. 『商業経済研究』 第 5 巻 pp. 94-97. 2016
- 23) 廖鴻氷. 「中国在宅養老モデルの理性的選択」『求索雑誌』 第 7 巻 pp. 19-23. 2014
- 24) 鄒滄萍. 「中国における都市部在宅ケアの研究課題」『浙江理工商学院雑誌』 第 3 巻 pp. 91. 2019
- 25) 張程川. 趙娜. 「地域在宅介護サービスの問題点と対策研究」『西部学刊雑誌』 第 21 巻 pp. 151-153. 2021
- 26) 徐明江. 趙雲賢. 尤建鵬. 王碧燕. 李昭. 「南寧市における高齢者の地域在宅療養に対する意欲とその影響要因に関する研究」『中国総合医学雑誌』 第 23 巻 18 号 pp. 2328-2334. 2020
- 27) 張苑焜. 「インターネットプラス地域在宅ケアへの参加意向に関する研究」陝西师范大学. 2018
- 28) 『第 14 次五年計画』国家高齢者事業発展及び養老サービス体系計画, 2021 年 3 月 13 日. http://www.gov.cn/xinwen/2021-03/13/content_5592681.htm
- 29) 邱蓮. 「農村高齢者の心理健康状況調査」『高齢者の心理健康状況調査』 第 8 巻. 2003
- 30) 松田智行. 田宮菜奈子. 柏木聖代. 森山葉子. 「介護保険制度導入前後における在宅サービス利用の変化」『日本公衛誌』 第 60 巻 第 9 号. 2013
- 31) 小林哲也. 「Andersen のサービス利用の行動モデルにおける Context の概念」人間関係学研究. 社会学社会心理学人間福祉学. 大妻女子大学人間関係学部紀要. 第 17 巻. pp. 55-63. 2015
- 32) チェジョンヒョン. 村嶋幸代. 堀井とよみ. 服部真理子. 永田智子. 麻原きよみ. 「訪問看護とホームヘルプサービスの利用に影響及ぼす要因」『日本公衛誌』 第 49 巻 第 9 号平成 14 年 9 月 15 日
- 33) 小池高史. 深谷太郎. 野中久美子. 小林江里香. 西真理子. 村山陽. 渡邊麗子. 新開省二. 藤原佳典. 「独居高齢者見守りサービスの利用状況と利用意向」『日本公衛誌』 第 60 巻 第 5 号. 2013 年 5 月 15 日